

令和3年度の県の取り組み

2. がんリハビリテーションの普及
3. がん治療と仕事の両立支援

2. がんリハビリテーションの普及

(1) がんリハビリに対する認知度の向上

①がん患者及び家族等向け資料の作成（令和3年度）

- ・ 医療従事者を情報源として知る患者が多いことから、説明時に活用しやすい資料を作成することで効果的に情報提供を行う。各病院へ配分予定。

②誰でも参加できる公開講座の開催（令和2年度～）

- ・ 専門家によるがんリハビリの解説を、誰でも聞ける機会として提供する。
（令和4年1月29日オンライン開催 講師：慶應義塾大学医学部教授 辻 哲也 氏）

■事業実施の背景（アンケート調査結果 スライド④、⑤、⑥）

- ・ がんのリハビリについて、言葉だけ知っているも含めて、知っていると回答したがん患者は5割に満たず、認知度が低い。
- ・ 知っていると回答した患者の情報源は医療従事者が約4割で最も多い。また、相談する先として医療機関が最多に挙げられ、約7割の患者が選択した。

(2) 医療従事者等の人材育成

■ 医療従事者のスキルアップを図る専門研修（令和3年度～）

- 医療従事者の育成により、がんリハビリの提供が受けられる環境の整備を図る。
(令和4年1月29日オンライン開催 国内3施設の実践報告等)

■ 事業実施の背景（アンケート調査結果 スライド⑦、⑧、⑨）

- 各種の機能障害等に対するケアの提供施設が県内にあるが、がんリハビリの提供上の課題は、6割以上の施設が専門技術を挙げている。
- 従事者に対してがんリハビリを周知している医療や介護の施設は5割に満たず、学ぶ機会を提供している施設はさらに少ない。

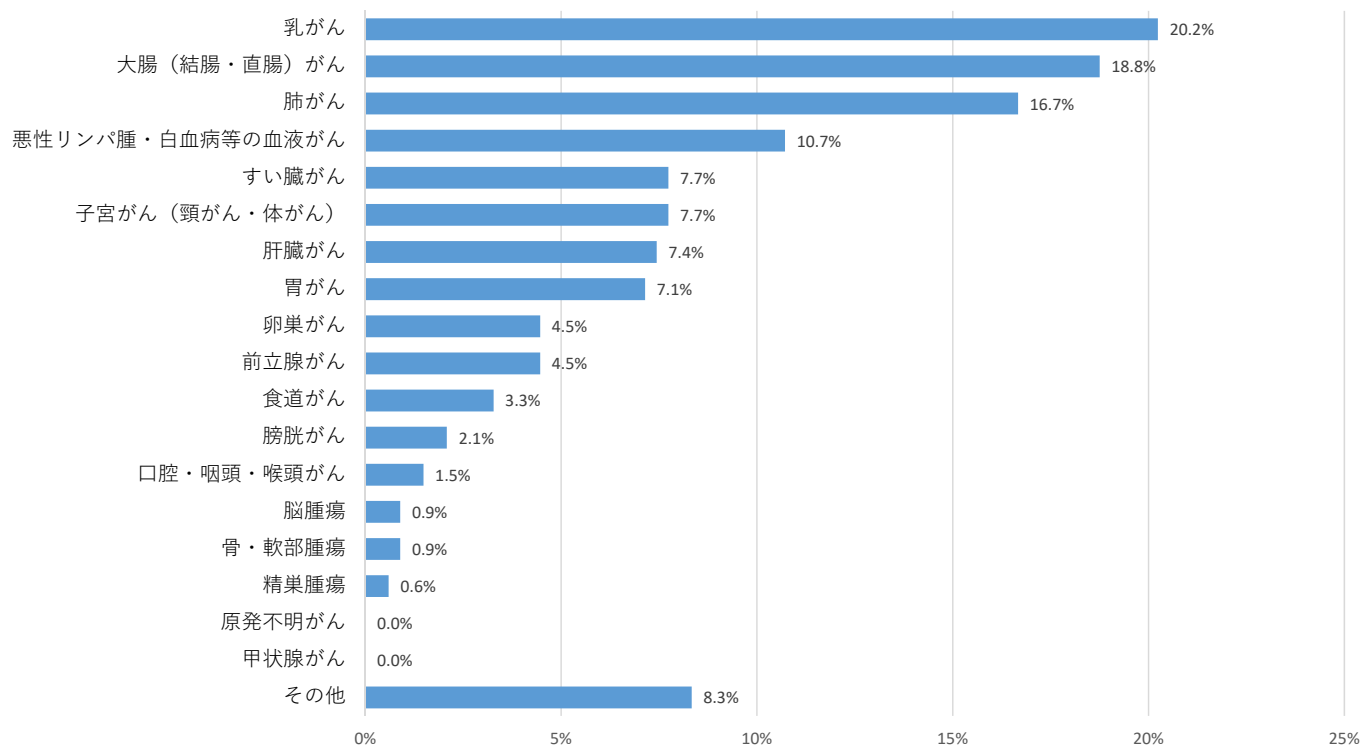
①がん患者のリハビリテーションに関するアンケート調査結果の概要

- 調査期間4週間
- (配布開始：R2/1/20、回答期限：R2/2/14)

	対象	配布数	配布方法	回収方法	回収計	回収率
I がん患者	がん診療連携拠点病院及び リハビリ病院のがん患者 等	875	直接配布	回収箱及び 郵送（受取人払）	366	41.8%
II 医療系施設	病院 在宅療養支援診療所 在宅療養支援歯科診療所 訪問看護ステーション 等	945	郵送	郵送（受取人払）	196	20.7%
III 介護系施設	居宅介護支援事業所 通所介護事業所 等	790	郵送	郵送（受取人払）	196	24.8%

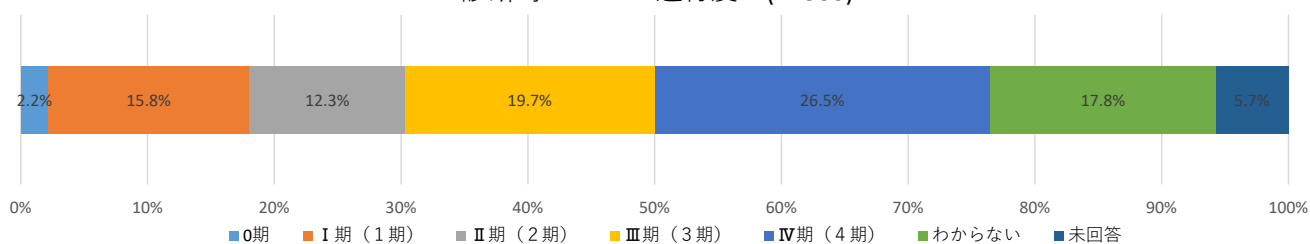
②がん患者向けアンケート 属性

過去5年間で診断されたがんの種類 複数回答可 (n=336)

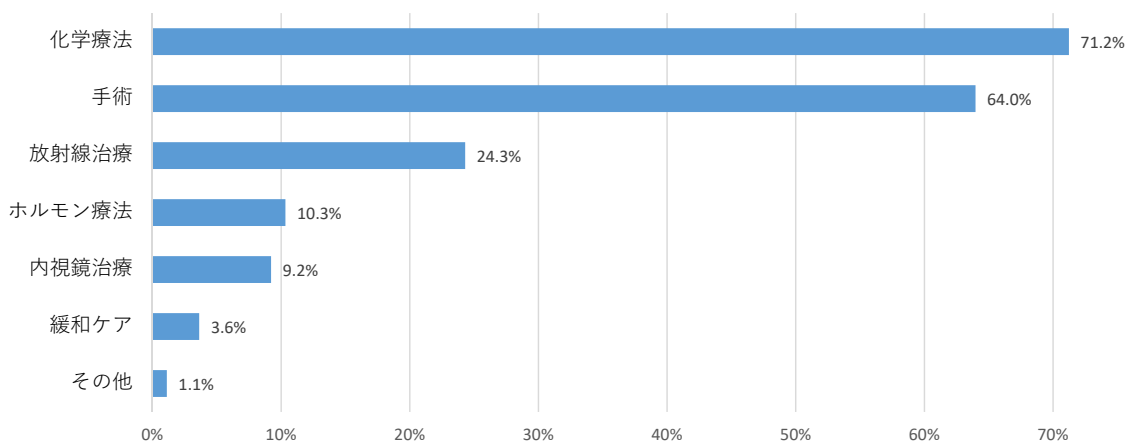


③がん患者向けアンケート 属性

診断時のがんの進行度 (n=366)

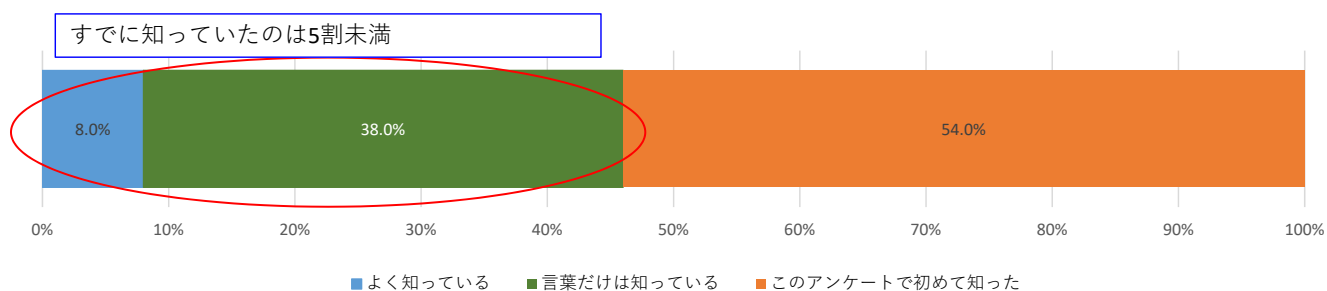


これまでに受けたがん治療 複数回答可 (n=354)

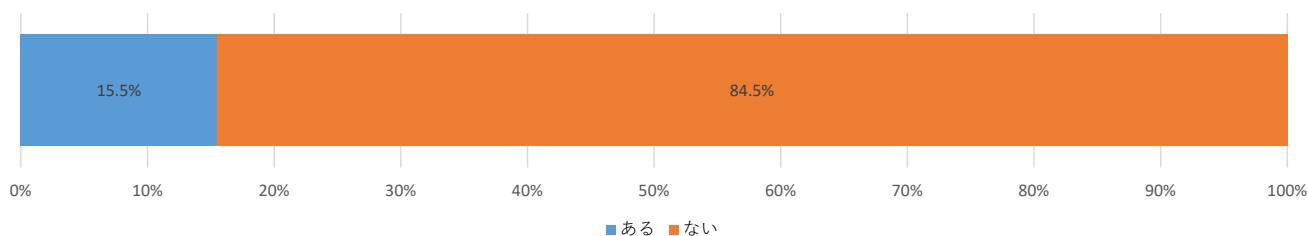


④がん患者のがんリハビリ認知度

がん患者のリハビリテーションについて
知っていますか (n=337)

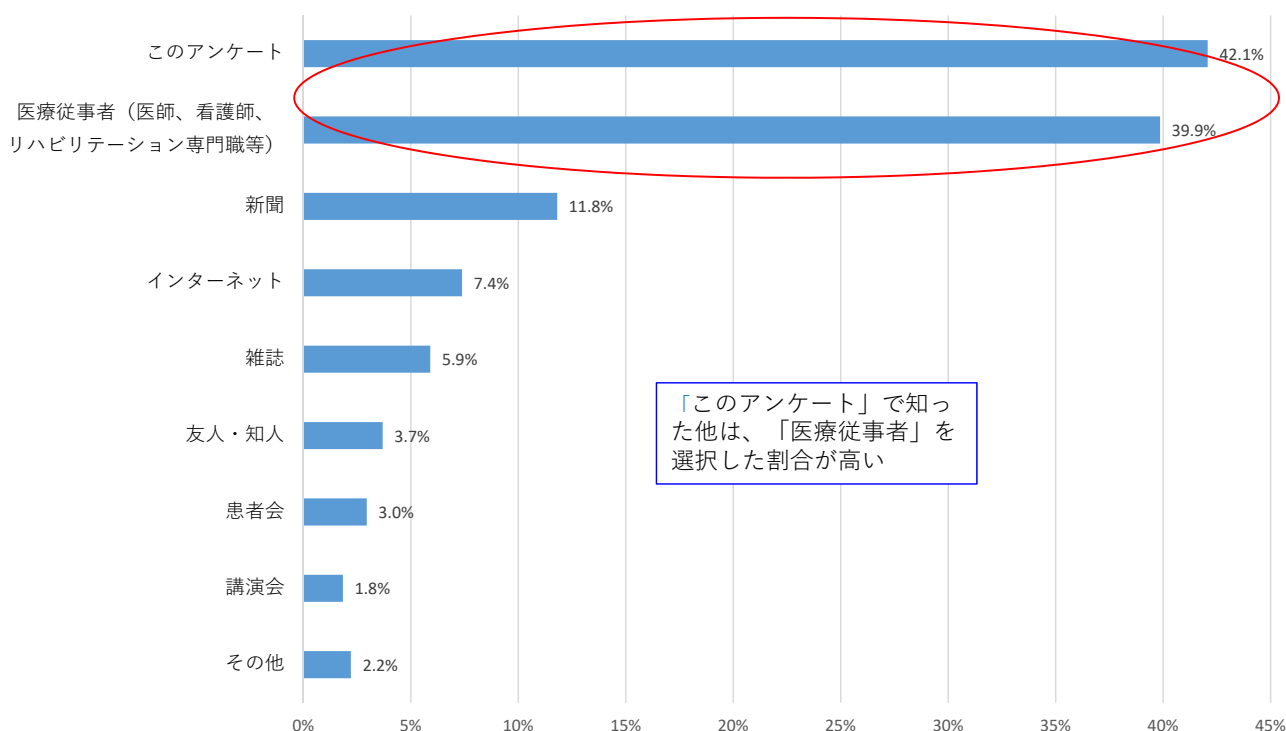


がん患者のリハビリテーションを受けたことがありますか (n=342)



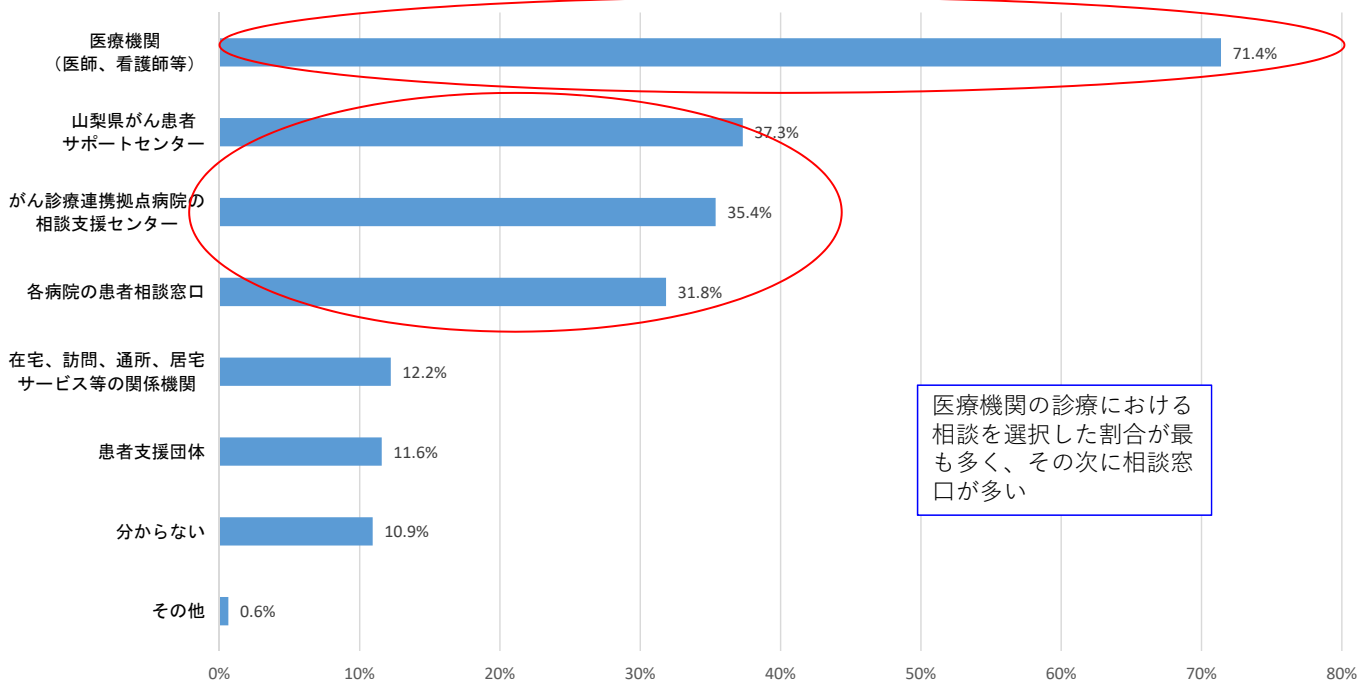
⑤がん患者のがんリハビリ認知度

がんリハビリを知った情報源 (n=271,複数選択可)



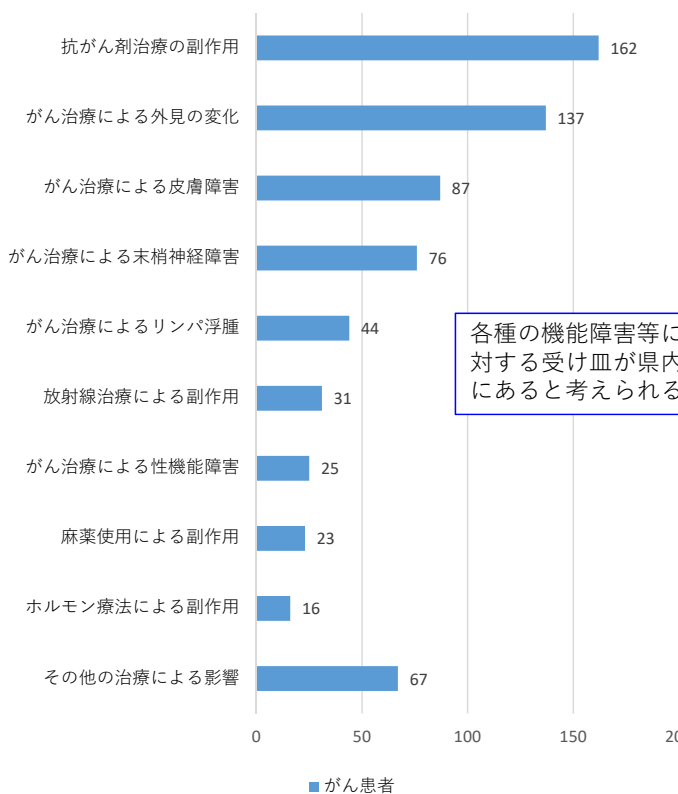
⑥がん患者が考えるがんリハビリの相談先

がんリハビリについてどこで相談できると思うか (n=256,複数選択可)

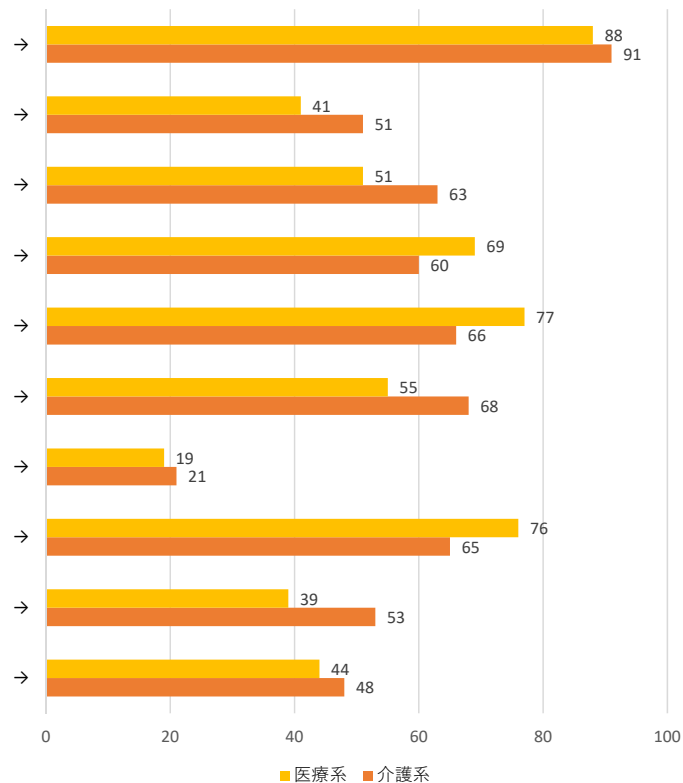


⑦がんリハビリのニーズと提供状況 (治療)

治療の影響による機能障害等がある患者数



リハビリを提供可能な施設数



各種の機能障害等に対する受け皿が県内にあると考えられる

⑧がんリハビリの提供における課題（治療）

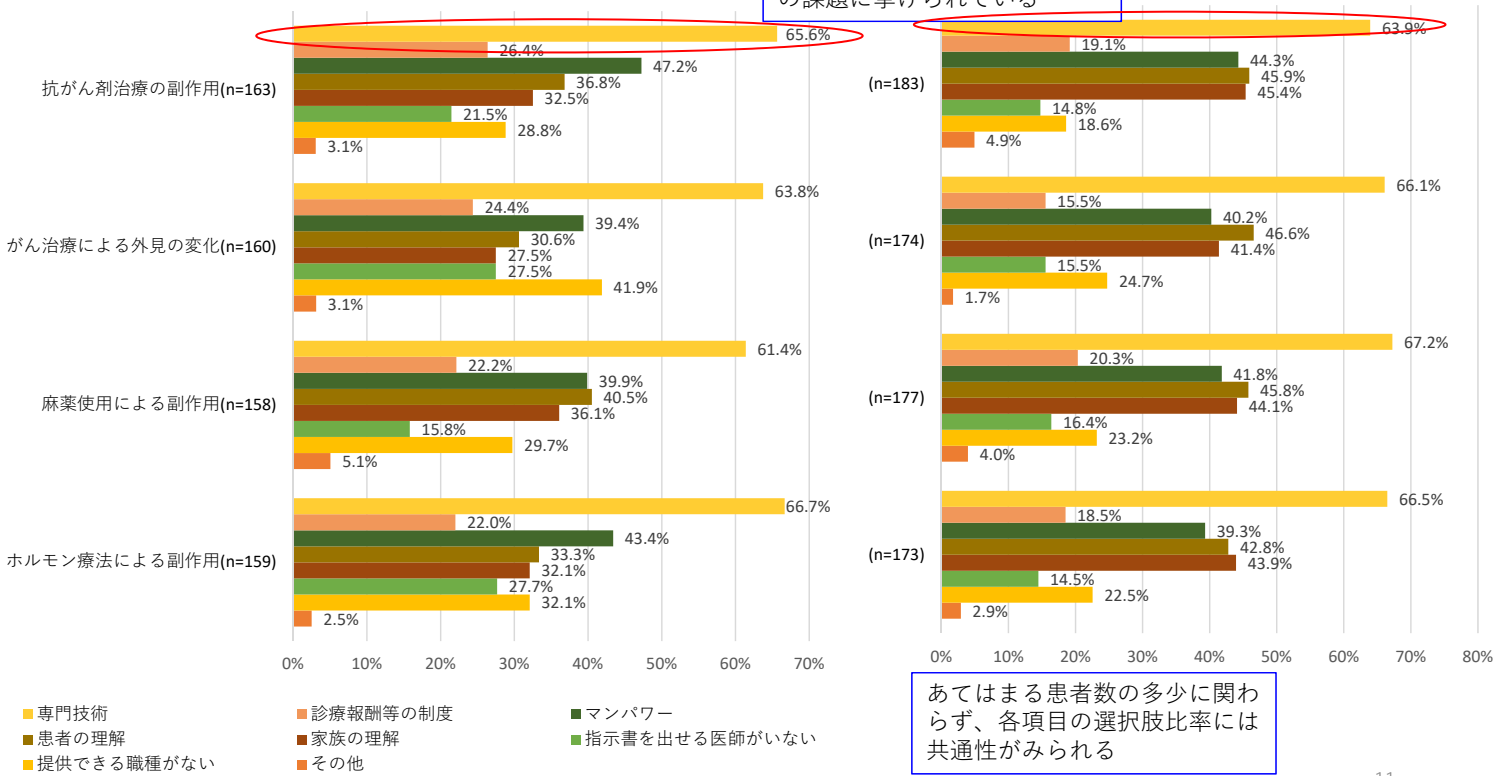
複数回答可

患者数の上位・下位各2項目を抜粋

治療の影響に対する提供上の課題（医療系施設）

どの項目でも専門技術が最大の課題に挙げられている

（介護系施設）

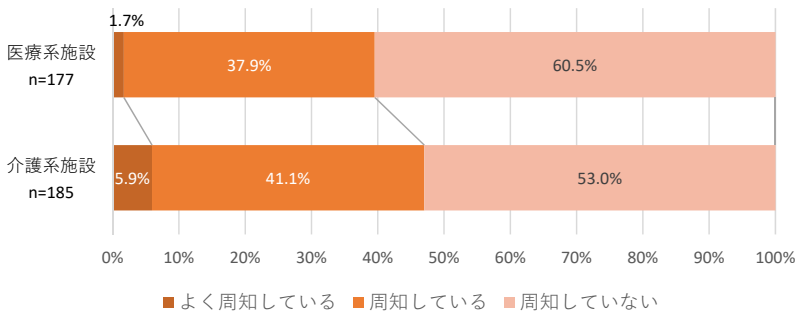


あてはまる患者数の多少に関わらず、各項目の選択肢比率には共通性がみられる

⑨職員へのがんリハビリの周知

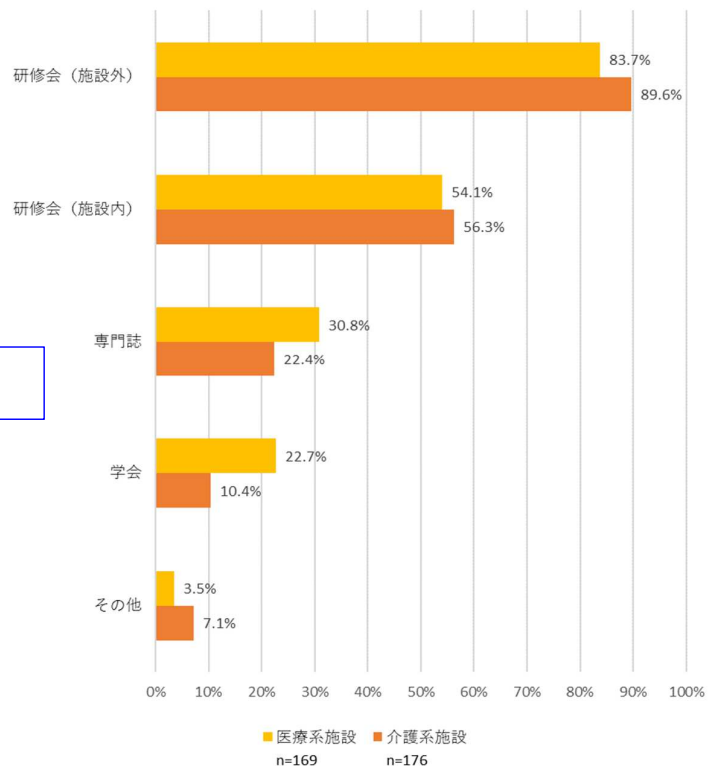
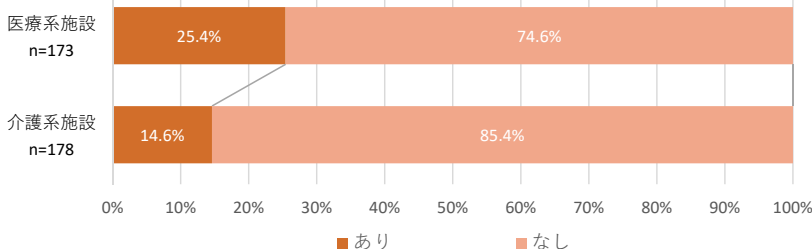
職員に対するがんリハビリの周知

職員に対する周知に適する情報源（複数回答）



職員への周知を行っている施設が5割未満に留まり、学ぶ機会も少ないなかで、外部研修のニーズが高い

職員へのがんリハビリを学ぶ機会の提供



3. がん治療と仕事の両立支援

(1) 事業主の理解や支援の促進

■企業向け出張講座の実施（令和3年度～）

- ・がん患者が働きやすい雇用制度の導入や、従業員のがんに対する理解を促すことを目的に、県内中小企業へ社会保険労務士やピア・サポーター等を派遣する。

（年間4回予定、令和3年度4回実施）

■事業実施の背景（アンケート調査結果 スライド⑥、⑦、⑧、⑨）

- ・事業主の理解や支援が十分得られたと回答した割合は、H28調査から有意に増加（44.7%→58.7%）したが、3割程度が診断後に休職又は退職する状況が続く。
- ・休職又は退職した患者では、職場で利用できた制度が少なく、事業主の理解や支援が得られたとの回答も少なかった。

(2) 相談窓口の周知

■がん患者向け相談窓口の案内資料を作成（令和3年度）

- ・医療へのアクセス時に情報提供することが効果的と考えられ、医療従事者等が説明に活用しやすいものとする。各病院・相談窓口へ配分予定。

■事業実施の背景（アンケート調査結果 スライド⑩、⑪、⑫、⑬）

- ・就労継続について相談しなかった患者のうち、約3割は相談のニーズを持っていた。
- ・各相談機関の認知度について、知っていると回答した割合がH28調査よりも低下した相談窓口があった。
- ・相談窓口を知っていても3～4割はどのような相談にのってくれるか分からないと回答しており、相談ニーズの受け口として、相談窓口が十分に活用されていない。

①がんの治療と仕事の両立支援に関するアンケート結果

I がん患者対象 (直接配布)

対象：県内のがん診療連携拠点病院で治療中のがん患者

配布数	回収方法		回収計	回収率
	紙面	Web		
500 月間の拠点病院利用がん患者数	214	26	240	48.0%

II 相談機関対象 (郵送配布)

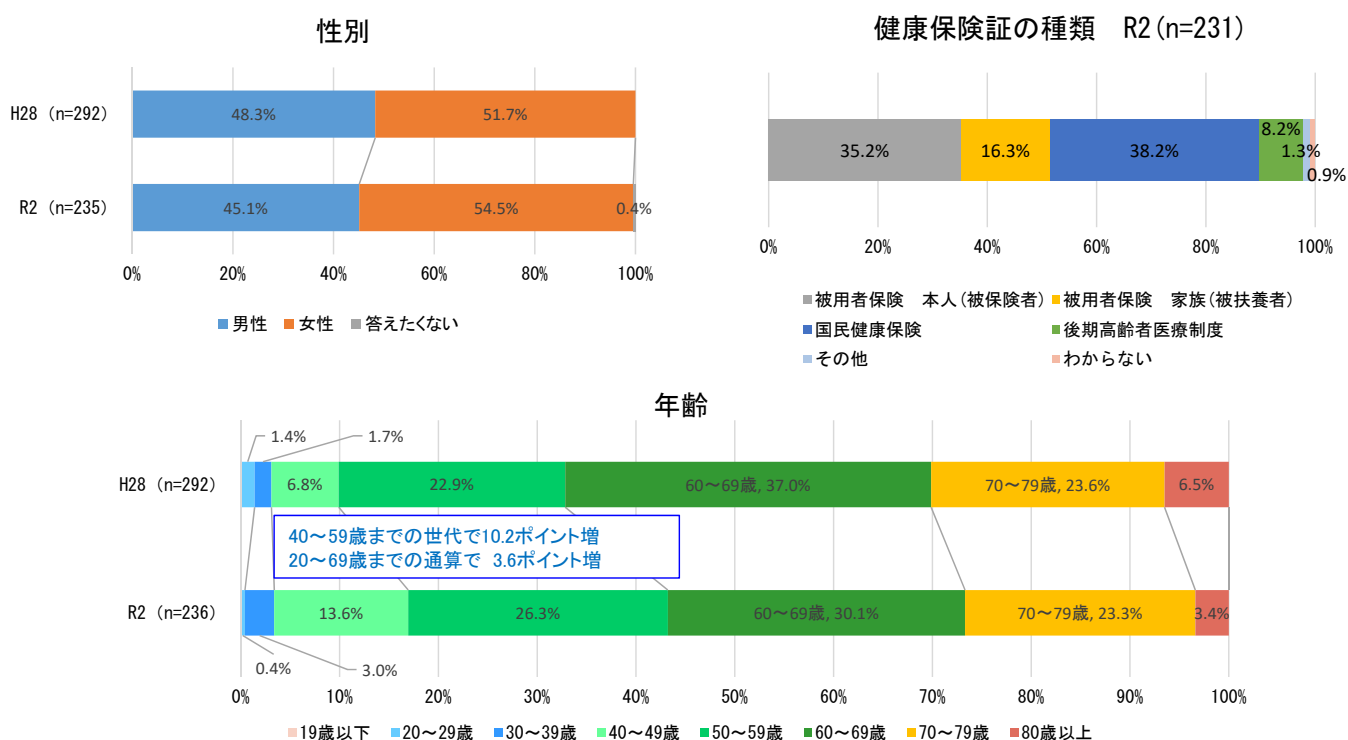
対象：がん患者の治療と仕事の両立支援に携わる県内の相談機関

配布数	回収方法		回収計	回収率
	紙面	Web		
72 把握する相談機関数	21	4	25	34.7%

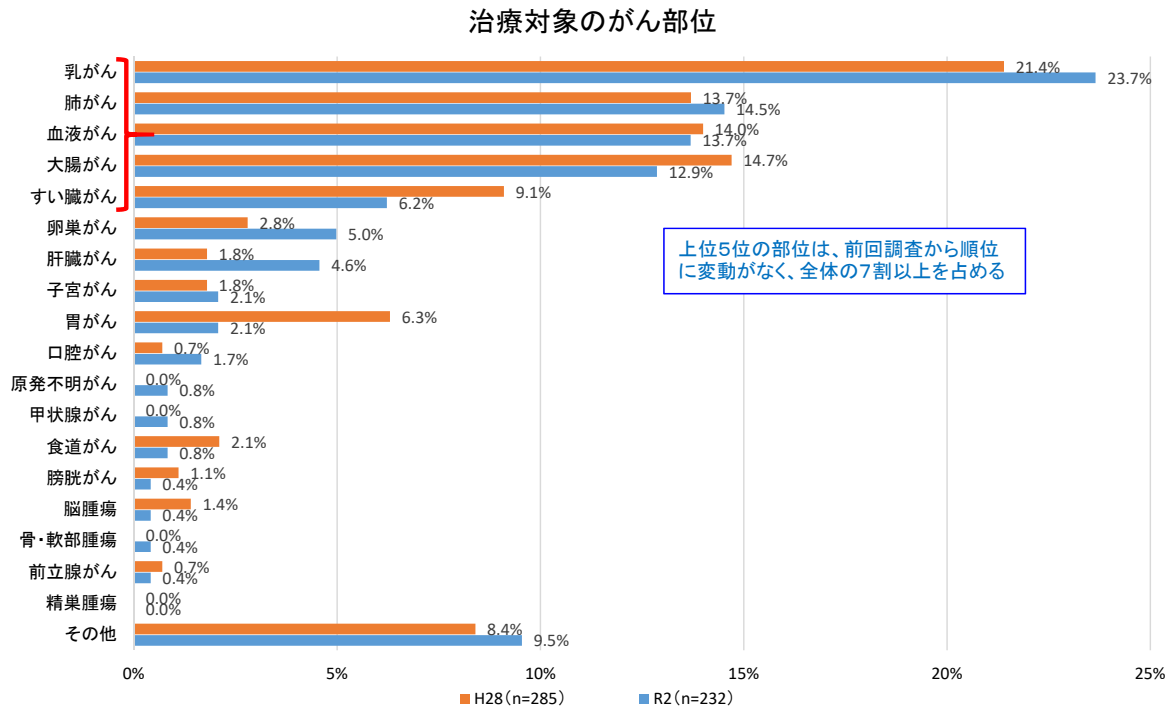
I、II 共通 配布開始：R3/1/27

回答期限：R3/2/19 (紙面)、R3/3/19 (Web)

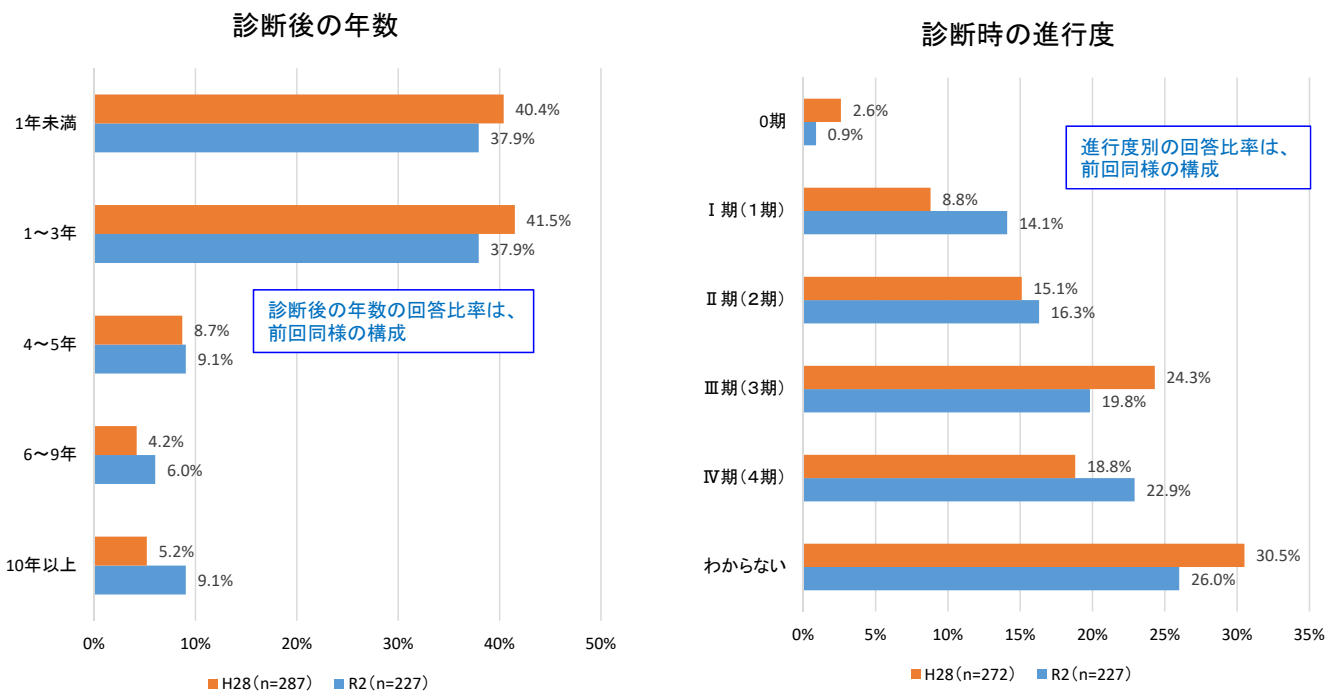
②患者向け設問(属性) 性別、年齢等



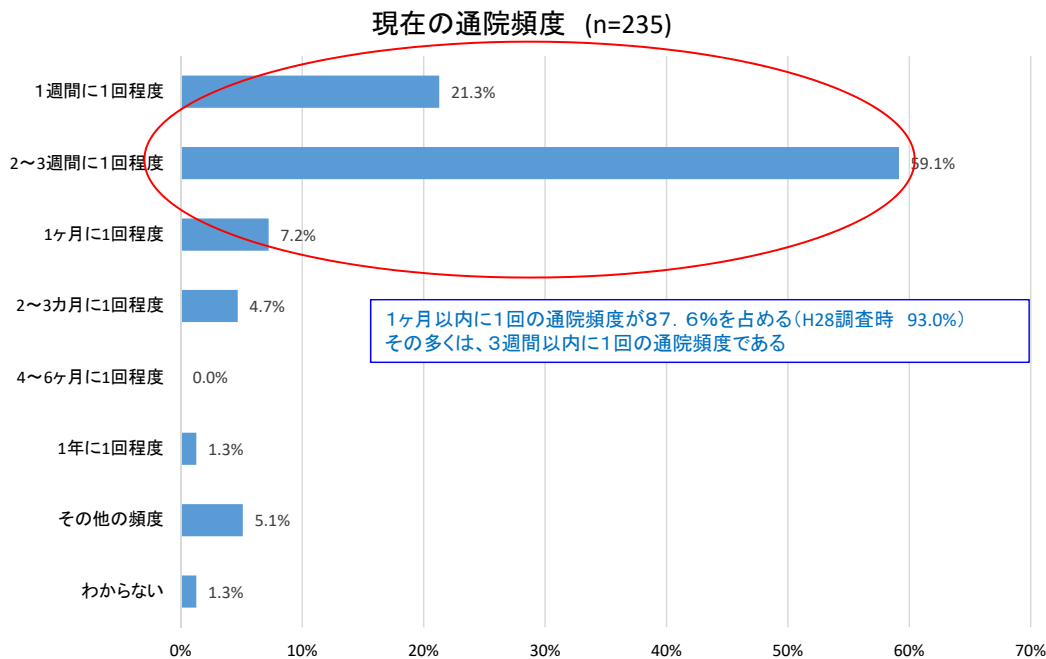
③患者向け設問(属性) 治療対象のがん部位



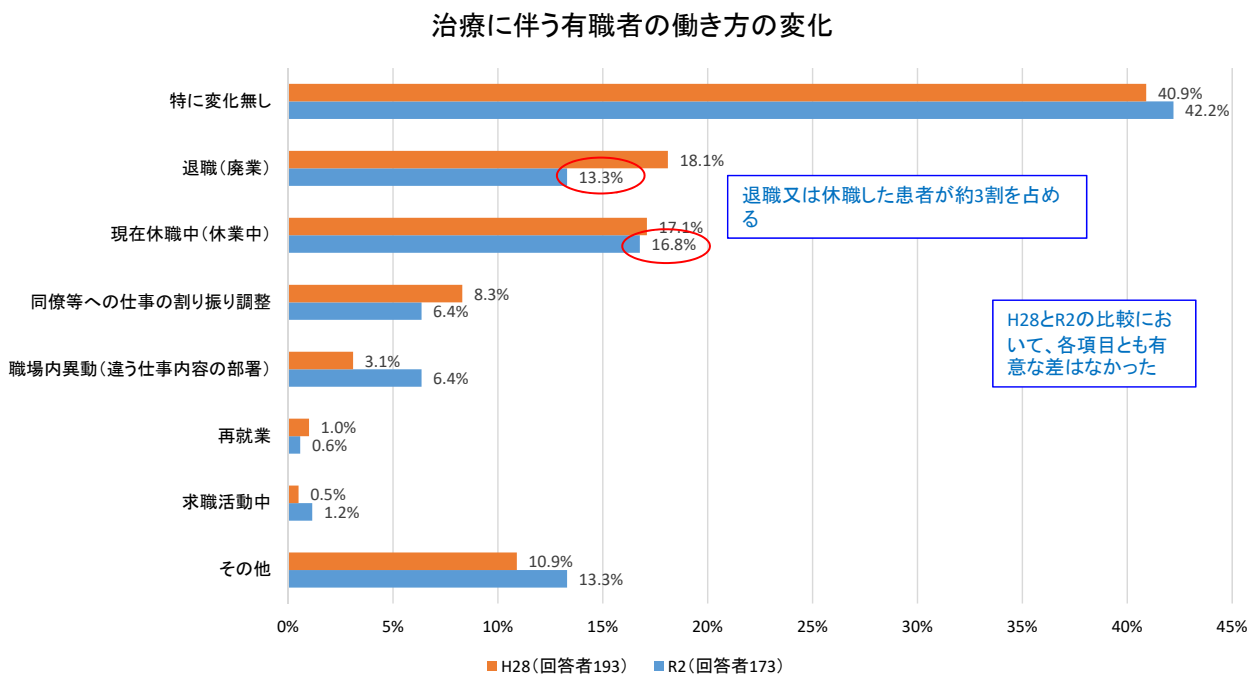
④患者向け設問(属性) 診断後の年数、診断時の進行度



⑤患者向け設問 現在の通院頻度

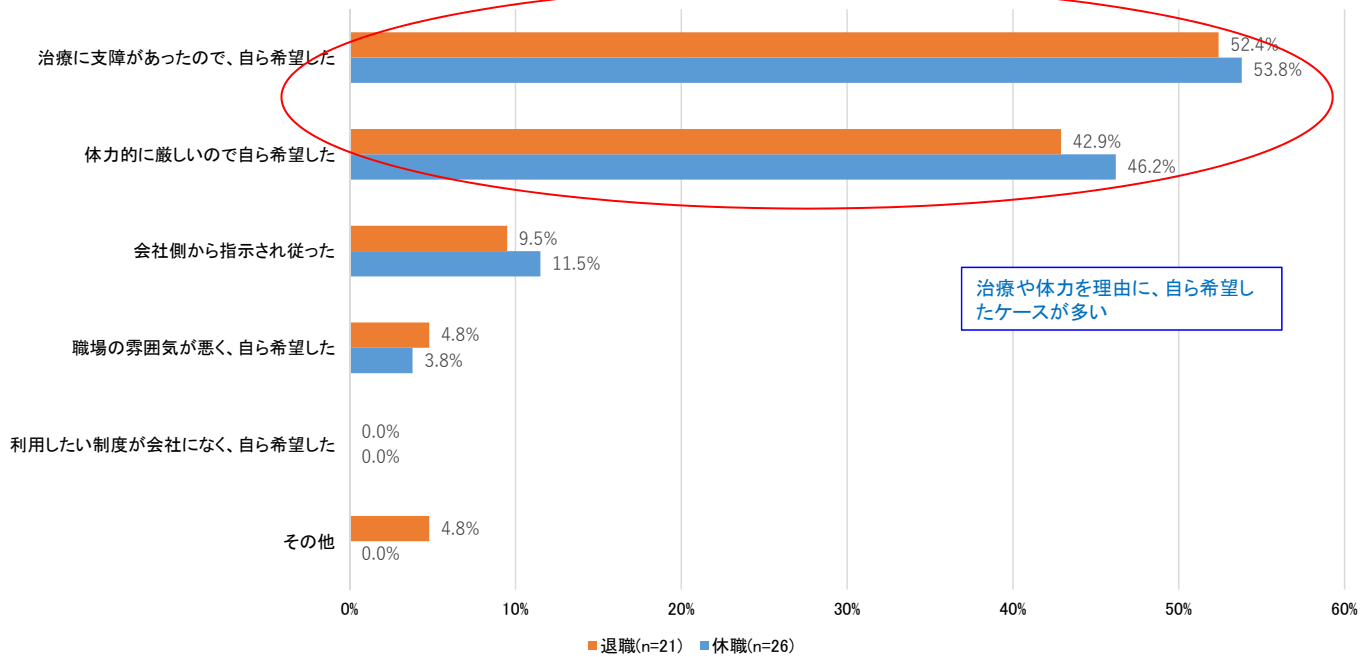


⑥患者向け設問 治療に伴う働き方の変化



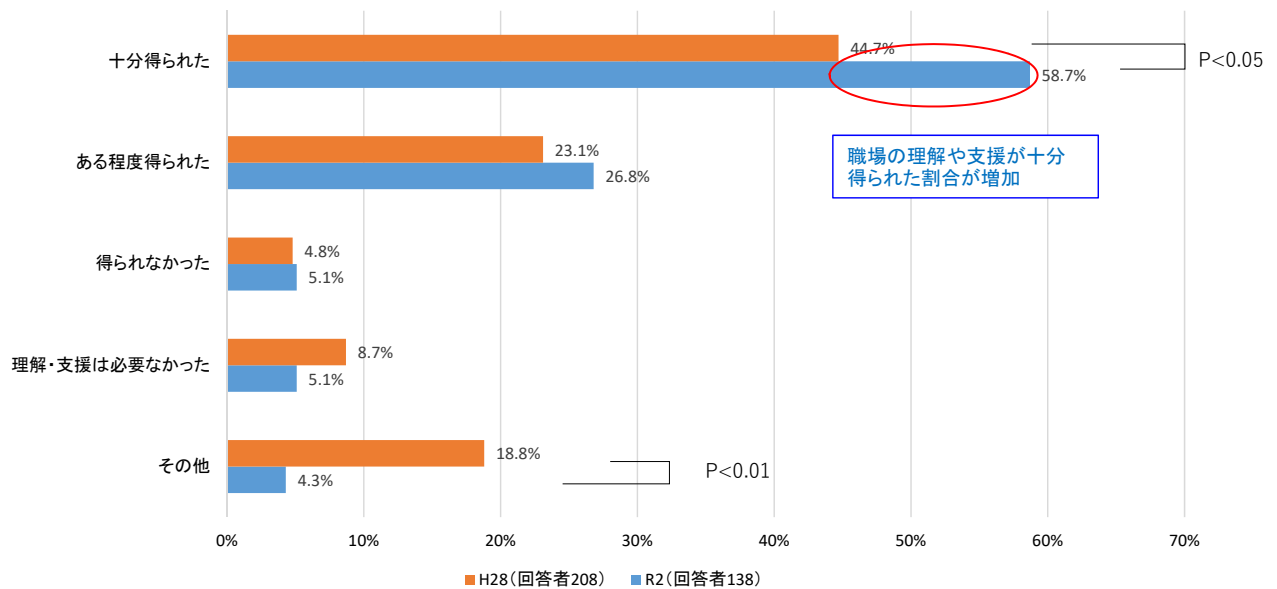
⑦患者向け設問 退職や休職の経緯

診断後に退職、休職した患者による回答
(複数選択)



⑧患者向け設問 事業主の理解や支援

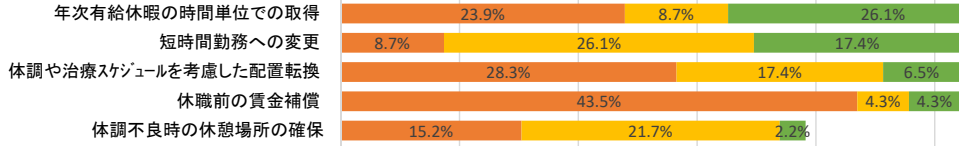
事業主の理解や支援は得られたか



⑨患者向け設問 事業主の理解や支援

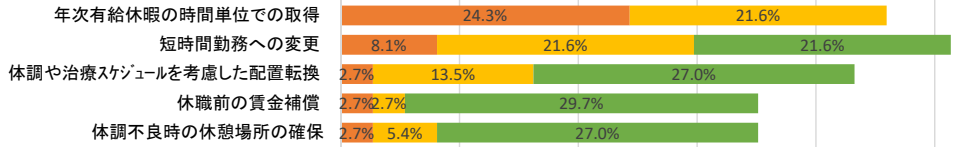
必要と考える制度について (複数選択)

a: 診断後も就労を継続している群 (N=46)



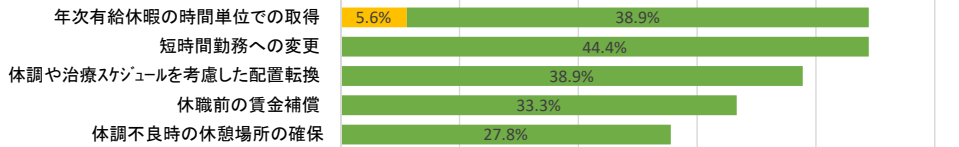
a: 各制度のニーズに対して、利用できる環境にあった人の割合が最も高い

b: 退職・休職者のうち、職場の理解や支援が得られたと回答した群 (n=37)



b: 短時間勤務や時間単位の休暇制度が在職中に利用できる環境にあった人の割合が比較的高いが、それ以外の制度を利用できる環境にあった人の割合は少ない

c: 退職・休職者のうち、職場の理解や支援が得なかったと回答した群 (n=18)

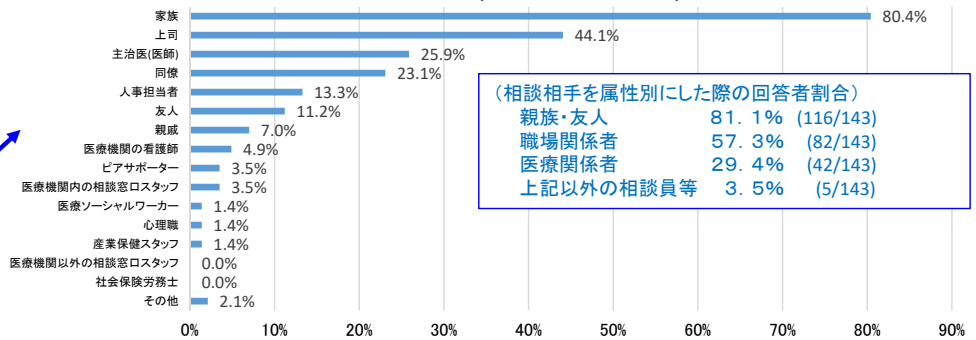


c: 各制度のニーズに対して、利用できる環境にあった人の割合が最も低い

■ 職場で活用した制度 ■ 職場にあった制度 ■ 必要と思うが、職場になかった制度

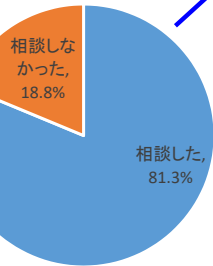
⑩患者向け設問 仕事の継続についての相談

相談相手 (n=143, 複数選択)

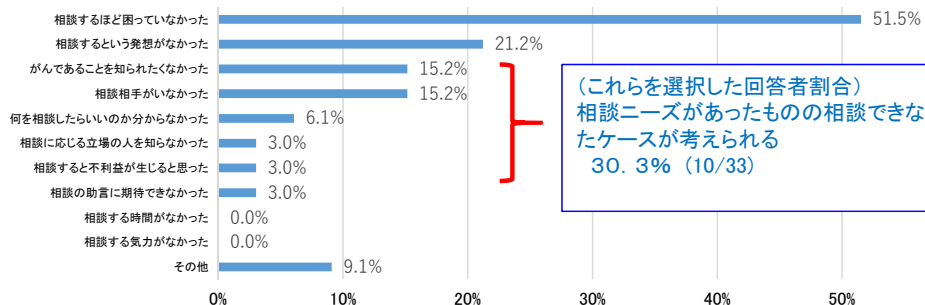


(相談相手を属性別にした際の回答者割合)
 親族・友人 81.1% (116/143)
 職場関係者 57.3% (82/143)
 医療関係者 29.4% (42/143)
 上記以外の相談員等 3.5% (5/143)

仕事の継続について相談したか (n=176)



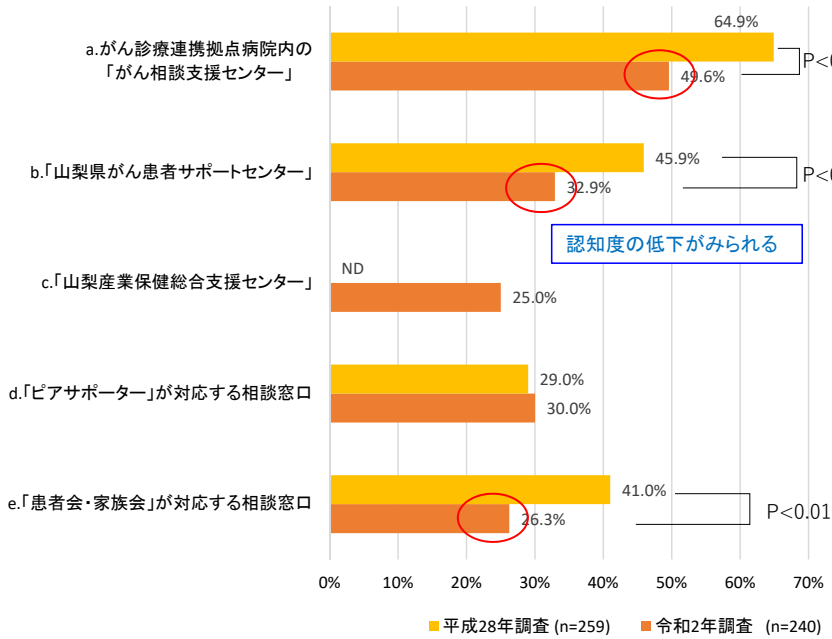
相談しなかった理由 (n=33, 複数選択)



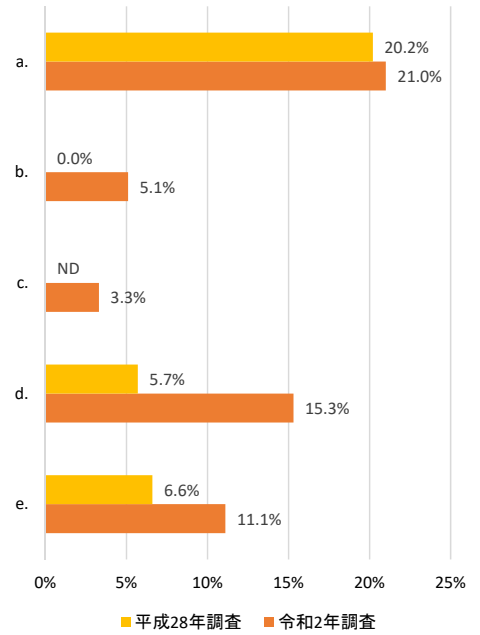
(これらを選択した回答者割合)
 相談ニーズがあったものの相談できなかったケースが考えられる
 30.3% (10/33)

⑪患者向け設問 相談機関の認知、利用状況（推移）

相談窓口を知っている回答割合

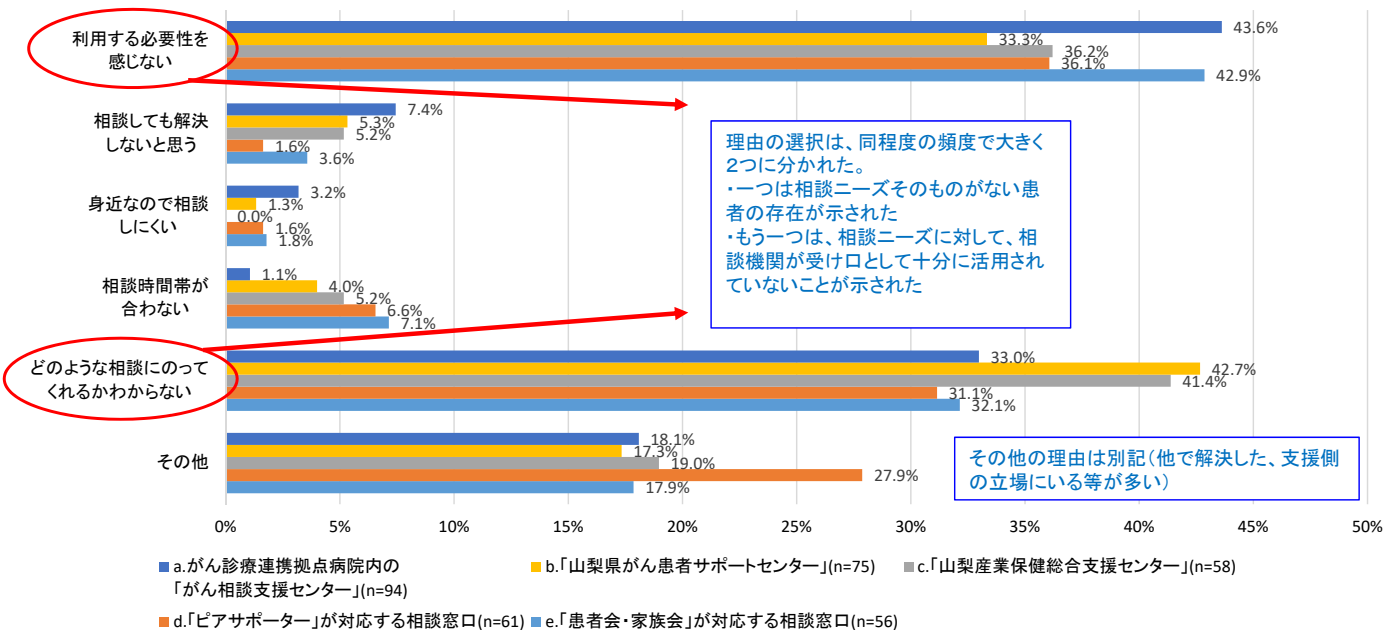


知っているうち利用した割合



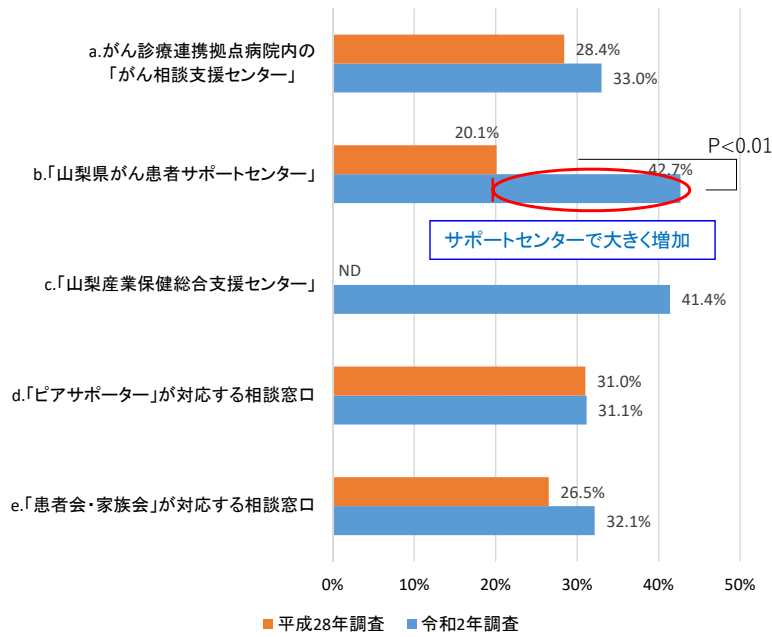
⑫患者向け設問 相談窓口を利用しなかった理由

知っているが利用しなかった理由（複数選択可）



⑬患者向け設問 利用しなかった理由（推移）

どのような相談にのってくれるかわからない



利用する必要性を感じない

